

徹底した予防行動を



頻繁に耳にする大雨警報・暴風警報等、命の危険がある場合に発令される『各警報』に関し、今年から運用が開始された「熱中症警戒アラート(警報)」も、この連日の暑さによって注目ワードとして定着しつつあります。

この「警戒アラート」が発令された場合には、直ちに『不要不急の外出は避ける』『エアコンによる室内の適切な温度管理』等をする必要があります。

なお、発令の指標になるのは「暑さ指数※」というもので、この数字の元となるものは「気温」だけではありません。

※ 暑さ指数(熱中症指数):単位は気温と同様に「℃」で表し、人体が感じる熱を的確に表して熱中症予防に役立てるために提案されたもの。

<計算式として>

○ **暑さ指数 = 気温:1、湿度:7、輻射熱:2** の割合を考慮して算出されます!!
熱中症警戒アラートは、暑さ指数が『33℃』以上になると予測される地点で発令されます。

- | | |
|-----------------|--|
| ○ 温度基準「31℃以上」は | ⇒ 危険レベル:外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。運動等は原則中止。 |
| ○ 温度基準「28～31℃」は | ⇒ 厳重警戒レベル:外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意。激しい運動等は中止。 |
| ○ 温度基準「25～28℃」は | ⇒ 警戒レベル:激しい運動・作業等をする際に定期的な休息を取る。積極的な休憩を心掛けながら涼しい木陰(日陰)を選ぶ。 |
| ○ 温度基準「25℃未満」は | ⇒ 注意レベル:一般的に危険性は少ないが、重労働時等は注意が必要。帽子をかぶったり、こまめな水分補給をする。 |

あくまでも気温だけでなく、身体に熱がこもりやすい湿度にも注意を払いながら天気予報等で「暑さ指数」を確認の上で、暑さ対策をしながら乗り切りましょう!!

新型コロナウイルス禍で迎える2年目の夏でもある今年、アメリカ・カリフォルニア州のデスバレーでは地球上の最高気温とも言われる「54.4℃」の灼熱地獄が起きているほか、日本でも冬の寒さが厳しい北海道旭川市江丹別で最高気温37.6℃を記録、新潟県秋葉区(新津)でも最高気温39.2℃を記録する猛烈な暑さが続いています。

～これまでの気温(暑さ)の記録～

- | | |
|-----------------------------|--------------|
| ○ 静岡県浜松市……41.1℃(2020年8月17日) | ※国内観測史上最高気温 |
| ○ 埼玉県熊谷市……41.1℃(2018年7月23日) | ※国内観測史上最高気温 |
| ○ 新潟県胎内市……40.8℃(2018年8月23日) | ※北陸地方の過去最高気温 |
| ○ 石川県志賀町……40.1℃(2019年8月15日) | ※石川県内の過去最高気温 |



約1年間におよび遅れて開催された『東京オリンピック2020』では、五輪史上で最も気温が高い大会として歴史を刻む程に超過酷を極めた大会となり、参加したアスリート達にとっては、新型コロナ感染のパンデミック下での異例の状況で競技に臨むことを余儀なくされ、参加するだけでも精神的に追い込まれていたはずであり、そのなかで『最高のパフォーマンス』を発揮して結果を求められた訳ですから、家庭におけるテレビ観戦している我々にも「気迫」「執念」等が画面を通して伝わってきました。特に地元(石川)からの代表選手として女子レスリング最強姉妹(川井梨紗子・友香子)がW金メダルという快挙も達成してくれ、本当に勇氣と感動をも与えてくれました。

昨年夏とは違って、気候変動等による影響「酷暑」が連日続く「自然の猛威」にも勝たなければ、目標の『金メダル』を獲得することが出来ない条件下で、祖国の代表者同士が真剣勝負を繰り広げる本当に熱き(暑き)戦いが、コロナ禍の暗い世の中に「希望の明るい光」を輝かせてくれたのも事実であります。

そんな実際の競技に参加した選手達の中でも、アーチェリー競技(女子)に参加していたロシア(ゴムボエワ:団体銀メダリスト)選手が、最終スコア確認中に「熱中症」で一意識を失い、担架(ストレッチャー)で運ばれる事態となったほか、テニス競技(女子)でも試合途中において「熱中症」の症状で動けなくなり、車椅子でコートから運び出される等、暑さにおける「死の危機」が迫る状況下での大会進行に対しては、IOC(国際オリンピック委員会)が掲げる『安全最優先で確実なオリンピック開催を!!』と考えていた方針内容とは、随分なズレが生じており、強引さ(強行的)だけが目立った感じも色濃く残りました。

そもそも8月に入って、新型コロナウイルス(変異ウイルス:デルタ株等)が更なる急激な感染拡大(新規感染者の増大)をし、東京都・沖縄県が「緊急事態宣言」の延長を打ち出し、大阪・神奈川・埼玉・千葉等も含め首都圏・関西圏の多くの地域で医療崩壊(病床逼迫)の現況でありながら、『無観客開催=安全』として「世界最大のスポーツの祭典」を開催することで、今後の更なる危機感の喪失に繋がりが「感染爆発!!」が全国各地で起きなければいけないのですが……。不安と恐怖を拡散した大イベントの後始末と犠牲等が、我々に降り懸かっていることを祈るばかりです。

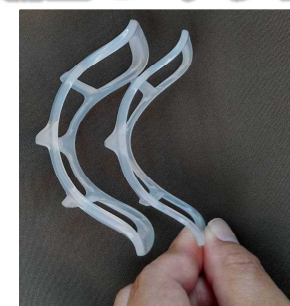
暑さの次は、3年前の西日本豪雨を超える『異例の長雨』による大雨特別警報が出される事態となり、九州や中国地方等に土砂災害・河川の氾濫等が起き、終戦記念日を迎える石川県内でも宝達志水町で「観測史上最大」を記録する294.5mmの雨(約1ヵ月分の雨を3日間弱で記録)が襲いました。この夏も各地で「記録的な猛暑」「大型台風」「ゲリラ豪雨」と、地球温暖化による異常気象が原因(影響)なのか??気の休まる瞬間が無いお盆となった。

Point

～氷撃マスク・インナーフレーム配布 & 熱中症警戒・東京オリンピック!!～

組合から夏用マスク配布!!

猛暑を乗り切るアイテムの活用
クールベスト&冷却タオルも含め
新型コロナウイルス感染症対策も忘れず!!



新型コロナウイルス感染症予防対策の基本として『マスク着用』が求められる中で、今年の夏は非常に厳しい猛暑が連日のように続いており、この気温の上昇にもかかわらず「マスクを着用」しながらの外での業務遂行に関しては、熱中症の恐れが高まり集中力・判断力等にも大きな影響を与えるものであり、少しでも快適に過ごせるものとして、クールベストおよび冷却タオル等に引き続き、組合から『氷撃マスク×2枚』と『マスク・インナーフレーム』を全員に順次提供させて頂きました。



去年は「洗える布マスク」でしたが、今年は冷感プリント(特殊)で処理された生地が人間の皮膚に発生する水分(汗)等を吸収し、吸熱特性により生地温度が下がることで「持続的な冷感効果+消臭効果」がある『氷撃マスク(手洗い50回可能)』を御用意し、飛沫拡散抑制に優れた安心の国産品であり、暑い毎日の通勤・業務等を問わず「マスク着用時」の強い味方となることは間違いありません。

また、マスク着用時に口元に空間を与え、顔に直接的接触をさせないことで張り付き感を無くし、より自然に呼吸・会話等が可能となるサポートアイテムとして『マスク・インナーフレーム』も合わせて御用意をさせて頂きました。

なお、こちらは大好評を頂きまして追加注文(別途:1個200円)販売を行っており、サイズも「大きめ(大人用)」「小さめ(子供用)」の2種類が選べますので、必要な方は組合が窓口となっておりますので、お気軽にお申し出下さい。

現在の新型コロナウイルス感染状況を見ても、感染経路が不明のまま感染し発症しているケースが石川県内(まん延防止等重点措置中)でも多くなってきています。

マスク着用の効果等について(厚生労働省調べ)

- マスクの素材については、一般的なマスクで比較した際①不織布マスク②布製マスク③ウレタン製マスクの順に効果があると言われています。なお、フィルター・性能・布の厚さ等によっても効果に差が生じます。
※ 同じ素材のマスクでも、自分の顔の形にぴったりとフィットしたものを選ぶのが重要。
- マスクの着用による効果については、自分側と相手側の双方がマスクを着用することで、ウイルスの吸い込み(拡散)を約70%以上抑えられ、マスクの素材別で見ても双方が不織布マスク着用で約75%減、双方が布マスク着用で約70%減に抑えられる研究結果が報告されています。
- マスク着用が必要とされる場面については、特に室内での会話等におけるマスクの着用の必要性が大きく、屋外ならば不要ということではなく、如何なる場面においても感染防止に必要な「最低1mの間隔」を確保できない場合も多々ありますので、自分から相手への感染拡大を防ぐためにも、会話の際には『マスク着用』を意識しましょう。

「マスク」は、自分からの飛沫による「ウイルス拡散」を防ぐ効果が大きく、周りの人達を感染から守ることに繋がる重要な役割も果たしています。したがって、仮に無症状感染者がマスクを着用せずに、近距離で人と会話することで「飛沫等の飛散によるウイルス拡散」をし易い状況を作らなくて、この状態を続ければ同施設(空間)内に空気感染も含めた日常生活を脅かす事態を招き兼ねず、たとえ体調等に異変(症状が現れていない)を感じていなくても、無意識のうちに自分が感染している可能性は否定できません。もしかしたら、あなたも既に『新型コロナ感染・初期段階』なのかも知れません。

コロナ感染による発症前には、「発熱」「咳」「鼻水」等の風邪の症状のほか、「味覚・嗅覚異常」「呼吸困難」等の症状が出ることも、なかには下痢・嘔吐等の消化器症状、意識障害等の神経症状が現れる場合もあり、世界保健機構(WHO)によれば感染から5日間程度で発症するケースが多いと言われています。

日本国内でも従来のウイルス感染を凌ぐ勢いで「変異株」の感染者が増加していますので、マスクの完全着用、手洗い(手指消毒)の徹底も含め、一人ひとりが積極的な感染対策を心掛けましょう!!



第192号
発行2021年8月20日
金沢市従労組 情報宣伝部